北海道新型コロナウイルス感染症対策本部
第１３１回本部会議　記録

日　時／令和４年１１月１０日(木)
１８：３０～１８：５０
場　所／本庁舎３階　テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】
これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部第131回本部会議を開催します。まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

【佐賀井新型コロナウイルス感染症対策監】
資料1をご覧願います。主な指標の状況について、11月9日時点で新規感染者数は、全ての地域で今週先週比が1を上回っておりまして、人口10万対では札幌市879.4人、札幌市を除く地域で894.2人、全道で888.6人と、いずれの地域も増加傾向にございます。また、病床使用率も札幌市が44.5%、札幌市を除く地域が38.6%、全道で40.5%と、同様の傾向にございます。

続いてスライド2、各圏域の状況ですが、新規感染者数の先週比が全ての圏域で1を上回っておりまして、増加傾向にあります。病床使用率も同様に増加傾向が見られまして、特に道北圏、十勝圏が高い水準で推移してございます。

続いてスライド3、総評1です。全国の状況です。新規感染者数の増加傾向が続き、全ての地域で先週比が1を上回っている中、国の専門家は、今後も増加傾向が続き、この夏のような感染拡大に繋がる可能性があると指摘しておりまして、本道では10月26日以降、10万人当たりの新規感染者数が全国最多の状況が続いてございます。

医療提供体制です。病床使用率は、札幌市も含め増加傾向が続いておりまして、この夏のピークの水準に近づいており、道北圏、十勝圏では高い水準となっているほか、重症病床使用率は横ばいで5.6%となってございます。

感染状況です。新規感染者数は、11月8日、9日と連続して日々の過去最多を更新するなど、増加傾向が継続しておりまして、この夏のピークの水準に近づいておりますほか、年代別では、引き続き、30代以下の割合が約6割を占めまして、これまで約2割となっていた10代の割合が減少し、その他の年代の割合が増加している状況でございます。

続いてスライド4、総評2です。今後の対策です。現在の感染再拡大は、これまでの新たな変異株による感染拡大と異なっておりまして、この夏と同じBA.5系統でございまして、基本的な感染防止対策が有効とされておりますことから、道民の皆様には、マスクの適切な着用のほか、工夫した換気の実施、体調管理に十分注意するなど、今一度、基本的な感染防止行動を徹底し、対策の強化を呼びかけますほか、オミクロン株対応ワクチンの早期接種の検討も働きかけてまいります。

また、誰もが感染する可能性が高まる中、セルフケアが重要となりますので、解熱剤や少なくとも3日分程度の食料品、また検査キットをあらかじめ準備するよう呼びかけてまいります。

現在、札幌市を含む道央、道北、十勝圏における即応病床はフェーズ２に、その他の圏域はフェーズ１としている中でございますが、地域によっては急激な増加も見られまして、全道で入院患者数が大きく増加しておりますので、今後の更なる増加を見越し、全道域で

最高フェーズの3へ引き上げてまいります。

続いてスライド5、総評3です。医療機関、高齢者施設等で集団感染が頻発しておりますので、日本DMATへ派遣を要請し、医師2名に11月9日から地域支援などの活動をいただいており、引き続き、地域の入院調整や、施設の感染対策を進めてまいります。

道内の流行株は、BA.5系統が主流となっておりますものの、国の専門家は、BQ.1系統や、BQ.1.1系統など、今後さらに割合が増加する可能性があり、注意が必要と指摘しておりまして、引き続き、ゲノム解析により、道内における動向を監視してまいります。

また、季節性インフルエンザとの同時流行は、外来医療体制の強化などを図る「外来医療体制整備計画」の策定に向けまして、最終的な調整を進め、速やかに国との協議に入ってまいります。

オミクロン株対応ワクチン接種ですが、11月、12月が接種のピークを迎えますことから、年内に希望する方全員が接種いただけますよう、市町村や関係団体、道内の大学、専門学校等とも連携を図りつつ、多様な媒体を活用した広報を集中的に展開してまいります。

続いてスライド6以降について、何点か主要な動向などを補足説明いたします。

少しスライド飛ばしましてスライド21をご覧いただきたいと思います。右側の棒グラフのとおりですが、感染者数が急増する中、10代の割合は減少しておりまして、20代から30代の割合が増加しており、また、左側の円グラフのとおり、引き続き、30代以下の割合が最も高く56.7%、60代以上の割合は16.0%と、概ね横ばいの状況が続いております。

続いてスライド23をご覧願います。ワクチン接種ですけれども、左側の表、3回目接種ですが、11月8日現在、VRSベースで約356万8,000人、接種率は68.8%と、全国を上回っておりまして、このうち65歳以上は、約152万人、接種率は90.8%と、全国と同様でございます。また、右側の表、4回目接種ですが、これまで約204万人が接種し、このうち60歳以上は約153万5,000人、接種率は76.4%で、全国を上回る状況でございます。また、下段の表、小児の接種率ですが、1回目22.1%、2回目21.1%と、全国を数ポイント上回る状況は継続しております。

スライド24をご覧願います。表の右下、赤の太枠になりますが、これから3回目以降のワクチンを接種しようとする場合は、オミクロン株対応2価ワクチンに加えまして、11月8日からは、ノババックスワクチンの接種も可能となってございます。接種回数ですが、いずれかのワクチンを1回接種としまして、対象年齢は、ファイザーの2価ワクチンは12歳以上、モデルナの2価ワクチンとノババックスワクチンは18歳以上となっており、またその接種間隔ですが、オミクロン株対応2価ワクチンは、ファイザー、モデルナとも前回接種から3ヶ月、ノババックスワクチンは6ヶ月となってございます。

スライド25をご覧願います。更なる接種促進の取組といたしまして、丸の二つ目になりますが、道民への接種の呼びかけとして、新たに撮影した知事のメッセージ動画を、街頭大型ビジョンや、SNSなど多様な媒体で発信しております。

また、丸の四つ目ですが、先行事例の提供といたしまして、接種促進の工夫事例などを市町村に情報提供し、横展開を図ってまいります。

丸の五つ目、今後は、予約状況などを把握し、必要に応じて接種体制強化に関する柔軟な対応などについて、市町村へ検討を依頼してまいります。

続いてスライド26をご覧願います。道の接種センターですが、ノババックスは、現在、11月27日までの予約を受付中でございまして、全ての日程で空きがある状況です。

また、オミクロン株対応ワクチンですが、道民の皆様から高い関心をいただいておりま

して、既に予約を満たしている状況にございます。その他のスライドにつきましては、本日の説明に関するデータや情報でございますので、後ほどご覧いただければと思います。資料1の説明は以上となります。

続きまして資料2をご覧いただければと思います。資料1「道内の感染状況等」について、専門家、有識者の皆様のご意見を伺いますとともに、市町村や関係団体の方々にも事前にお知らせしてございます。有識者、専門家の皆様からは、「概ね妥当である」旨のご意見をいただいてございまして、その内容をご紹介いたしますと1－①「新規感染者数は増加しており、検査の陽性率からさらなる警戒が必要なため、道民一人一人が感染対策をしっかり行うことがますます重要である。」1－②「医療機関の負荷が増しており、発熱外来を円滑に受診できるよう、引き続き、検査キットの活用を広報するとともに、家庭内感染が増加しているので、10代のワクチン接種を推し進めていただきたい。」1－③「新規感染者数の急激な増加に伴い、病床使用率も増加が続いているため、病床の確保など保健医療提供体制の充実を図るとともに、引き続き、感染防止対策の徹底と、オミクロン株対応ワクチンの接種を丁寧に呼びかけていただきたい。」といったご意見が寄せられております。

また、市町村や関係団体からは2－①「新規感染者数が過去最多を更新するなど感染拡大が続いている中、今後、更に感染者が増加した場合に、重症化リスクの高い方に適切に医療を提供できる体制整備を進めていただきたい。」2－②「新規感染者数の急増で医療機関の負荷が増しており、医療のひっ迫を防ぐため、発熱外来を円滑に受診できるよう、検査キットの活用を、引き続き、周知していただきたい。」こうしたご意見が寄せられております。こういった面については、今後の対策の参考としてまいります。

説明は以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております札幌市保健所の山口感染症担当部長からご説明お願いいたします。

【山口札幌市感染症担当部長】

札幌市の山口でございます。資料3に基づきまして、札幌市の感染状況をご説明いたします。それでは最初のスライドをご覧ください。市内医療機関から報告された新規感染者の1週間の合計についてでありますが、昨日時点で1万7,243人、市の人口10万人当たりに換算いたしますと、879.5人となっておりまして、1日当たりの新規感染者数も直近では、連続して3,000人を超えるなど、新規感染者数の拡大が続いている状況でございます。

それでは、次のスライドをご覧ください。市内の入院患者数、これは黄色い棒グラフでございますが、これにつきましては、昨日の時点で343人となっておりまして、8月のピークに迫る水準に達しております。高齢者の施設では、入所者や職員から陽性患者が多く発生しており、その影響もありまして、要介護の高齢者病床使用率は8割を超えているなど、医療への負荷が急速に高まっている厳しい状況にございます。

それでは、最後のスライドをご覧ください。検査件数でございますが直近1週間の件数は1万5,906件となっております。陽性率は、新規感染者数の増加に伴い上昇が続いております。なお、陽性率につきましては、この計算方式では検査数に抗原キットによる自己検査分等を含めておらず、100%を上回る結果となってございます。

北海道の中で札幌市は感染が拡大しており、病床使用率の上昇も続いておりますが、社会経済活動との両立を図りながら、医療への負荷を抑えていくためにも、基本的な感染対策の徹底とともに、ワクチン接種の促進がより一層重要と考えてございます。

また、発熱外来も予約が取りづらく、受診までに時間を要する状況も見られていることから、重症化リスク等に応じた外来受診や療養への協力の呼びかけも重要と考えてございます。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

この他、各部、振興局からご発言ございませんか。なければ本部長からお願いします。

【本部長（鈴木知事）】

昨日（9日）の道内の新規感染者数は過去最多の9,545人となり、一昨日（8日）に続いて2日連続で過去最多を更新するという状況になりました。本日の新規感染者数は、8,457人となりましたが、人口10万人当たりでは910.9人で全国最多の状況が依然として続いているところであります。

また、病床使用率についても増加傾向が続いています。本日、全道で42%、札幌市で46.1%となっており、この夏のピークとほぼ同じ水準となりました。入院患者数は、今週に入り、地域によっては急激に増加しており、全道でも増加傾向にあります。今後の更なる増加を見越し、即応病床のフェーズを最高の3に、11月14日から引き上げることといたします。

集団感染が増加している状況を踏まえ、日本DMATへ要請し、医師2名の派遣をいただきました。11月9日からは、地域での支援にあたっていただいております。引き続き、日本DMATと連携し、施設の感染対策などに取り組んでまいります。

現在の感染拡大は、この夏と同じBA.5系統であります。基本的な感染防止行動が有効とされています。再び感染レベルが高まる中、社会経済活動を維持していくためにも、道民の皆様には、今一度、感染リスクの高まる場面でのマスクの着用や、工夫した換気など、感染防止行動を徹底し、対策を強化していただくようお願いいたします。各本部員、地方本部員においては、市町村や関係団体とも連携し、道民の皆様に、改めて働きかけをするようお願いいたします。

また、併せて、感染した場合に備え、解熱剤や食料品、そして用意できる場合には、検査キットについて、あらかじめ準備することも呼びかけをお願いいたします。

感染拡大が続く状況にある中、重症化予防に効果のあるワクチン接種は極めて重要になります。オミクロン株対応ワクチンの接種が進んでおりますが、11月、12月はそのピークを迎えます。先日、私も接種を行ったところでありますが、希望される方々にできるだけ早く接種をしていただけるよう、市町村とも連携しながら、集中的な広報を展開するよう指示いたします。

季節性インフルエンザとの同時流行について、現在、外来医療体制の強化等を図る「外来医療体制整備計画」の策定作業を進めているところでありますが、医療現場における課題をお伺いしながら、この計画が効果的な内容となるよう、最終的な調整を進めるようお願いいたします。

また、国は、明日、新型コロナウイルス感染症対策分科会を開催し、レベル分類の見直

しなどを示すとの報道があったところであります。このことについて、私から、先ほど、加藤厚生労働大臣に連絡し、北海道の厳しい感染状況や、危機感について共有させていただいたところであります。加藤大臣からは、明日の分科会で、レベル分類の見直しなどについて議論を行う、このことをお伺いしたところであり、今後とも、国と緊密に連携していくことを確認いたしました。

現在、本道の新規感染者数は、全国最多という感染状況となっていることから、引き続き、国の見直しの具体的な内容について、詳細を確認するよう指示いたします。

私からは以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示のあったことにつきまして、本部員は必要な対応をお願いいたします。

以上をもって、新型コロナウイルス感染症対策本部第131回本部会議を終了いたします。

（了）